

「こだわり住宅」最新案内。リノベ、名作建築、コーポラティブ、ニ拠点居住 etc.

ELLE DECOR

ル・コルビュジエが
最後に愛した
パリの自宅を
特別公開!

JAPAN

The World's Leading
Design & Lifestyle Magazine

好評連載

佐藤オオキ
「ネンドノオンド」

皆川 明
「ミナ ペルホネの
言の葉・物の木」

日本と世界で見つけた、理想の家と暮らし方

これからの住居。

前川國男の自邸から田根 剛の最新作まで
スタイルのある住まい探訪

5人のプロが住宅実例を解説!
最強リノベーションを叶える
インテリアの法則

ROMAN & WILLIAMS
GREEN FINGERS 川本 諭
YAECA 井出恭子 ほか

ミッフィーと出会うオランダの旅

2015・16秋冬コレクションから探る
ファッション×インテリアの最前線

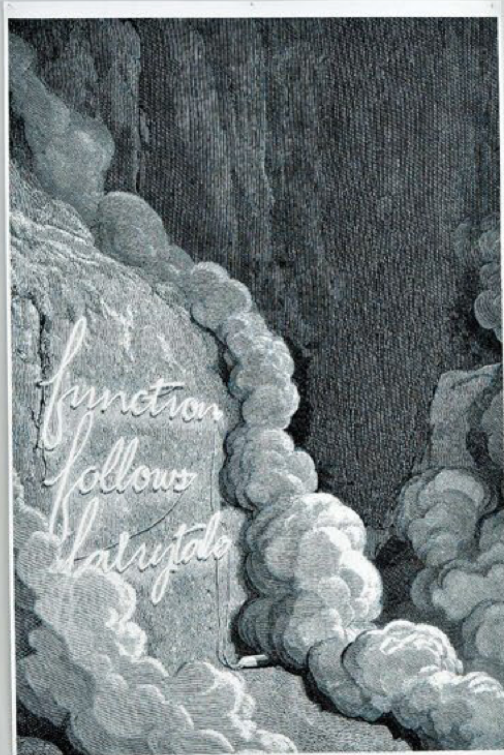
10 My Home, My Style
エル・デコ
no.140 October 2015

Botanic Flair

繊細でモダンな空間に植物が命を吹き込む!

ミラノの30年代のアパートメントを、建築家でデザイナーのピエトロ・ルッソがリノベーション。暮らしやすく改装した明るい空間に、植物やアートを飾り、自分たちらしさを加えていく。そこは、若い夫婦が年を重ねながら育てていく、まさに人と共に成長する家だった。

photos : FILIPPO BAMBERGHI (PHOTObyer) original text : PIETRO RUSSO text : SHIYO YAMASHITA



白くて明るいリビングに色や素材感を繊細に重ねて

美しいレリーフが施された高い天井が印象的なリビングルーム。ドイツの若手画家アイリッシュ・ラングロイターによるタフローがクラシックな空間にエッジな雰囲気を与えている。ロベルト・ラッセローニによるソファ「フランス」に腰掛けているのが家主のアドリアーノ・ルッソと妻のシルヴィア。セバスチャン・ヘルクナーによるクラシコンの「ヘルテール」とこの家を手がけたピエトロ・ルッソの「アホロランプ」がベストマッチ。「フランス」/ FLEXFORM TOKYO「ヘルテール」/ hhstyle.com 青山本店



植物との対話を楽しむための
光に溢れたサンルーム

右ページのリビングルームに面したサンルームのようなスペース。
'30年代の竣工当時の面影を色濃く残している。
ロベルト・ラッセローニがデザインを手がけた
バクスターのアームチェア「ペドロ」を、
クワズイモや寄せ植えの多肉植物、サンスベリアなどが取り囲み、
リビングルームと対照的な雰囲気を醸し出す。
「ペドロ」/ omobito







ゆるやかに繋がっていく
明るく開放的なリビング&ダイニング

右ページ ビエトロがデザインした「ビューマテーブル」が置かれたコンパクトで開放的な、明るいダイニングルーム。
天井から下げられた照明は同じくビエトロの「シンティッラランプ」、椅子はジョ・ボンティの力作「スーパーレジェーラ」。
「スーパーレジェーラ」/カッシーナ・イクスシー青山本店
左ページ ゆったりと広い廊下とダイニングをゆるやかに区切るのはキッチンと同じテイストで作られたガラス戸付きのサイドボード。
開口部の高さの違いなどを見ると、もともと完全な個室だったものを空間のバランスを見ながら繋げていったのがわかる。

ミラノ随一のショッピング街として知られるブエノス・アイレス大通りから少し離れた一角にある、'30年代に建てられた、190㎡の瀟洒なアパートメント。写真家のアドリアーノ・ルツと妻のシルヴィアは、1年をかけて不動産サイトで家探しをした末にこの家と出会った。これこそが求めていた家だと確信したアドリアーノは、兄で建築家のビエトロにリノベーションを依頼。初めて物件を訪れたとき、ふたりは空間が持つ歴史的なオーラに圧倒されたという。ただ、せつかくの大空間には'70年代に時のオーナーによって長く暗い廊下が設置され、いくつもの個室に分割されてしまっていた。

'30年代に想いを馳せながら
現代的な空間にアレンジ

「私たちはこの家の本来の姿を取り戻すべく、化粧漆喰や弓形の出窓などをひとつひとつ取り戻しました。リビングエリアにはよりモダンな雰囲気を持たせたかったので、オリジナルのプランを尊重しながら、大きな開口部をとりました」と話すのは兄のビエトロ。'70年代には120㎡にまで縮小されていた室内は、こうして広々と明るい空間へと蘇った。そのいっぽうで、こぢんまりとした寝室は狭いままの形で残したり、装飾的なウッドパネルが印象的なサニタールームの一角にはたくさんの植物を置いてライブ感を演出。家全体の緩急のつけ方にも、彼のこだわりが感じられる。

Pietro & Adriano Russo

ピエトロ&アドリアーノ・ルッソ

共に南イタリア・プーリア州生まれ。
 ピエトロは絵画と陶芸を学んだ後
 フィレンツェに移住。
 フィレンツェ美術学校でシノグラフィを学ぶ。
 1997年からベルリンでインテリアデザインや
 映画セットの製作などに携わった後、
 2001年からはリッソーニ・アソシアティに勤務。
 アレッシー、カッペリーニ、カルテルなどと仕事をする。
 '10年に独立して事務所を設立。
 インテリアとプロダクトのデザインで人気に。
 この家のオーナーであるアドリアーノは彼の弟。
 フィレンツェで写真を学んだ後、
 兄と共にベルリンへ。その後ミラノに移り、
 現在はイタリア版「ヴォーグ」をはじめとした
 ファッション誌や広告の分野で活躍している。

実もの、枝もの、ドライなど
植物をさりげなくプラスする

5. アーチ形の窓やレンガの壁などに
 '30年代の面影が残る
 緑に囲まれた洒落なアパートメント。
 6. 鳥の羽根のイメージという「ビューマテーブル」には
 実のついたドライの枝とザクロをふたつ置いて。
 気の利いた花器や鉢がなくても、
 植物や果物をそのまま置くだけで充分スタイリッシュ。
 7. サイドボードの上はガラスの花器や
 キャンドルスタンド、アンティークの香水瓶などを並べた
 ちょっとしたディスプレイコーナー。
 季節を感じさせる実のついた大ぶりの枝は、
 無造作に放り込めばいい感じに。
 ガラスドームの中には松ぼっくりを入れて。
 8. シャワールームの壁とシャワートレイ、
 洗面台と床は、すべて同じ黒大理石の
 塊から削り出したもの。ピエトロによれば
 「'30年代のスタイルを現代的に翻訳した」とのこと。
 9. コンパクトなキッチンとダイニングのある一角。
 料理をしたり、友人をディナーに呼んだりするのが
 大好きというふたりが最も長い時間を過ごす場所だ。
 壁には窓側にもリビングルーム側にも
 アートが飾られ、夫妻の趣味が垣間見える。

ピエトロ・ルッソが手がけた家具が
空間作りのアクセントに

1. 空間を柔らかく仕切りながら繋ぐような
 ピエトロの会心作「ロンボイダーレ・ブックシェルフ」。
 写真集やインドやシチリアの旅の思い出の品と共に
 LEDランプ「オットーランプ」のプロトタイプも。
 2. キッチンのワークトップは
 黒の大理石を使ってシックな印象に。
 日本ではお祝いの花のイメージが強い胡蝶蘭も
 果物類と一緒にキッチンに置くことで
 カジュアルな雰囲気が漂う。
 3. ピエトロがデザインを手がけた
 「ビューマテーブル」と引き立て合うようにと
 ジョ・ボンティの「スーパージェーラ」は
 白と黒のグラフィカルなものを選んだ。
 キッチンの前面はアルデコ調の仕上げ。
 「スーパージェーラ」/
 カッシーナ・イクスシー 青山本店
 4. 夫妻と娘のビアンカのベッドルームの壁紙は
 明るいブルーとゴールドのものをチョイス。
 照明はコンスタンス・ギセガがデザインした
 「ヴァーティゴ・ペンダントランプ」、
 アームチェアはディーゼル リビングの「チャビーシック」。
 「チャビーシック」/ディーゼル ジャパン

住人と一緒に年を重ねていけるような空間に

'30年代の建物の意匠を残しながら
 も、この家には2010年代らしい
 洒落さがある。それに貢献している
 のが、長年ピエトロ・リッソーニの下
 で家具デザインを手がけていたピエ
 トロによる、繊細な家具や照明器具
 の数々。モダンでシャープなフォル
 ムの中にアルデコからのエッセ
 ンスを取り込むことで、建物とのバラ
 ンスをうまくとっている。「仕上げ
 や色も統一することで空間同士に繋
 がりを持たせることができたと思
 う」と話す彼が、化学的な素材を避
 け、大理石や鉄、真鍮、木を多用す
 るのは、自然素材なら人間と同じよ
 うに、いい具合に風格が出てくるか
 らだそう。

この家の主であるアドリアーノと
 シルヴィアも、この家の仕上がりには
 大いに満足しているそう。アドリ
 アーノは「家自体はクラシックです
 が、モダンで明るいものにしたくて
 工夫しました。開放的で、ポジテ
 ィブなエネルギーをくれるような空間
 になったと思う。目下のお気に入り
 はリビングルームに友人を招き、音
 楽を聴きながらアペリティーヴォを
 楽しむことなんです」と話す。

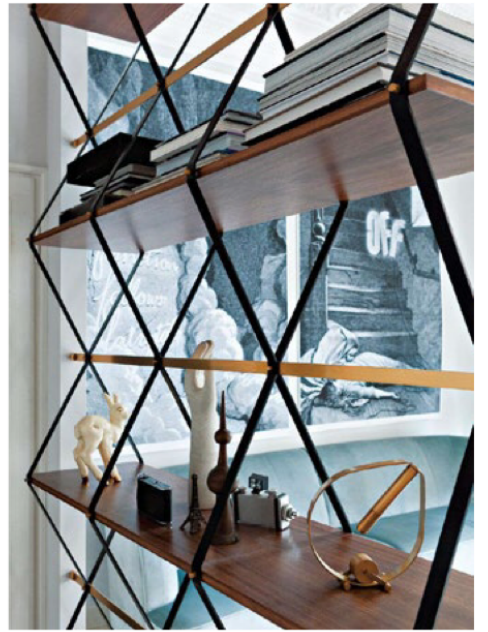
「私たちは家と人がいてこそ成り
 立つ空間であり、年を重ねることに
 人がどう変わっていくかを示すもの
 だと考えています」というアドリア
 ーノとシルヴィア。ひとり娘のビアン
 カが大きくなるにつれて、また仕
 事の充実や人間関係の変化に合わせ
 て、この家もきっと味わい深く変化
 を遂げていくに違いない。



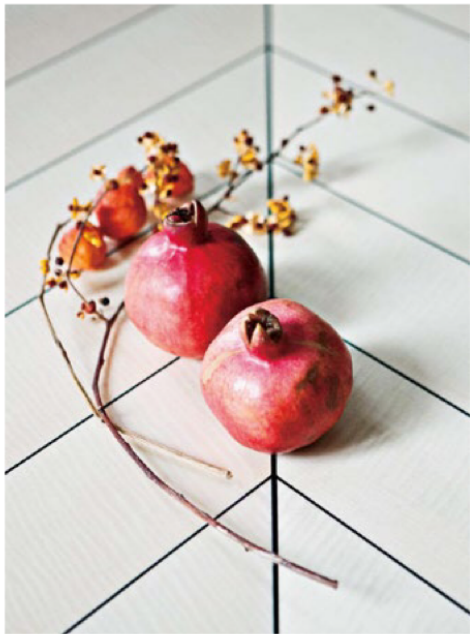
3



2



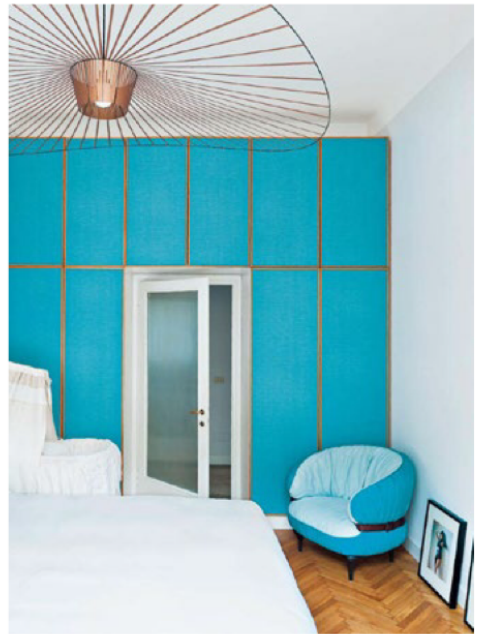
1



6



5



4



9



8



7